

62. 年中行事

農作業の1年のスケジュールと関わって村の年中行事があった。千里丘のN氏（大正元年）の話を中心に、話のついでに出た行事をまとめてみた。

お正月

お正月、氏神さんに参る（千里丘）。正月は各家自由。昔は総代さんの家へ挨拶に行った（鶴野）。正月には牛にも雑煮を食わせた（鳥飼中）。

1月6日、子供のトンド。カミトンド。……竹・藁よせてトンドをこしらえる。午後に燃やした。

1月10日、入営。年に1～2人の新兵さんが出ると、村中全部出て吹田の村はずれまで送っていく（千里丘）。吹田への道を太鼓をたたいて入営者を送っていった（別府）。

初午……稲荷講の人が、にぎり飯・油揚げをもって、お稲荷さんの眷属のいるところ、橋の下とか木の洞穴とかに配ってある。巫女さんがイナリオロシ（千里丘）。

小正月

1月15日、トンド。おとなのトンドで本格的。14日に作って15日の夜明けに燃やす。トンドの火をもらってきてアズキガユを炊いて祝った（千里丘）。

1月15日、小正月にはスサノヲノミコト神社でオカユウライ（お粥占い）。版木で豊凶を占う。ワセ・ナカテ・オクテ・ダイトウなど書いてあったという（千里丘）。

14日にトンドの準備。15日の朝、燃やす。青竹のはぜたのをもって帰って、その火で小豆粥を炊くと1年間無病息災。茨木川のあった昭和14年頃までやっていた（鶴野）。

節分、彼岸

節分には宮さんに参る。家では豆まき（千里丘）。

彼岸の中日には鉄道を越えたところのお墓にまいった。彼岸団子、ヨモギダンゴを食べる。団子は米の粉で作ってアズキの餡を丸めて中にハソソデ（挟んで）食べた（千里丘）。

ヤマユキ

4月8日はヤマユキ（山行き）。春休みで楽しみ。弁当をこしらえてジゼンジヤマ（仁禅寺山）へ行って食べる。見晴らしが良くて大阪城が見えた（千里丘）。

サナブリ・クサトリヤスミ

田植えを済ませたらサナブリの休み。総代が決めて連絡役の人がふれて回る。この人は2代前に余所から来た人で土地の農家ではなかった。この日は小麦団子を家で食べる。

クサトリヤスミ。サナブリが済んで、1週間か10日後から草取り始まる。草取り休みは大概5の日、10の日で掲示される（千里丘）。

イチロクヤスミ。1の日と6の日は村で決めた休みの日。ヒナカヤスミ（鳥飼中）。

水の管理

いい雨が降ると、アマヨロコビといって水の管理は臨時休み（千里丘）。

干ばつ……雨が降らないと順番に係りが出て水車を踏む。踏み役をニンソク（人足）
と言い日当が出た。財源は面積に応じて割り当てる。雨乞いはしたことがない（千里丘）。
池守は毎年順番で当たる（千里丘）。

7月頃、箕面の龍安寺で護摩の灰をもらってくる。タケノカワ（筍皮）に包んで竹の
先を割って差して、田に挿しておく、虫がこない（千里丘）。

ハゲショウ（半夏生）にはハゲダコといって。タコでお酒を飲んでもらう。

衛生掃除

衛生掃除は一斉におこなった。村長・役場から見回りに来て「済」の証紙を貼ってく
れた（別府）。昔の大掃除は警官や役場の職員が回ってくるまでは畳も入れられなかつ
た（鳥飼八防）。

夏祭り・盆

7月15日は夏祭り（千里丘）。

浄土真宗に盆の祭りはなし。門徒やから何もない（千里丘）。

盆のお供えはソウメン・トビウオの焼き物、すいか・マッカ・お酒。盆の挨拶のオタ
メには下駄を渡した（別府）。

八町の芝居

8月23日のヨイジゾウさんに、青年団がにわか芝居をした。総代の家で予行演習。
祖父が指導していた。男が女役もやり、「八町の芝居」は近隣でも有名だった。昭和4
～5年（1929～30）にはやっており、昭和17～18年（1942～43）頃までやった。

戦後にわか芝居やめてから、盆踊りに江州音頭をやった（鳥飼八町）。

秋祭り

10月15日は秋祭り。秋祭りには3年に1度、太鼓が出る。太鼓は氏子の5ケ字で回
り持ち。氏子の5ケ字は味舌上・坪井・庄屋・正音寺・千里正雀（千里丘）。

秋休み

12月10日頃アキヤスミ。とり入れが済んでの休み。餅つきして親類に配る（千里丘）。
イネコキ済めば煮込みご飯。ウスヒキ済めばオハギを出入りの人に出した（別府）。